
第2章

ARENAを セットアップする

02-01

ARENA を “入手” する

ARENA を入手するための方法は2通りある。Web からダウンロードするか、ショップのソフト売り場からパッケージ版を購入してくるか、だ。

以前はダウンロードだけだったが、2001年9月に、開発元のアリーナ・プロジェクトがact2 (アクト・ツー) と提携し、パッケージ版がact2 から販売されるようになった。



パッケージ版のメリットはARENA 本体はもちろん、アートセットなどのARENA を使っていく上で便利なユーティリティ類がすべてCD-ROMに入っており、また印刷されたマニュアルまでついてくるってことだ。標準価格は6,800円(ただしショップによっては若干の値引きがあるだろう)。

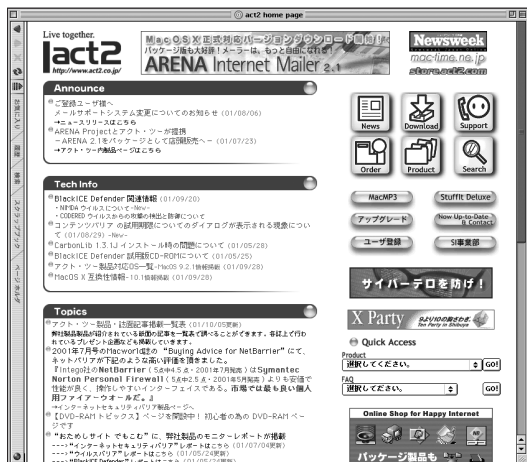
いっぽう、ダウンロードによって入手することのメリットは、お店に出かけていなくてよいということと、3週間の試用期間があるという点にあるだろう。つまり確かめてから、購入できるわけだ。マニュアルなどもPDFの形式でダウンロードできる。印刷コストなどがかからない分、価格も安い(3,800円)というのも魅力のひとつになるだろう。

ARENA のダウンロードは開発元のアリーナ・プロジェクトのサイトと、発売元のact2のサイト、そのどちらからでも可能だ。URLは以下の通り。



ARENA Project
<http://www.arena-p.co.jp/>

図 02-01
 アリーナ・プロジェクトのサイト
 (<http://www.arena-p.co.jp/>)
 ただし、こうした画面は頻繁に変更されることがある



act2
<http://www.act2.co.jp/>
www.act2.co.jp/

図 02-02
 こちらは販売元のアクト・
 ツーのサイト

ここからダウンロードして3週間の間、試しに使うことができる。その間に気に入れば送金(33ページで後述)すれば“ライセンスキー”が送られてくる。そのキーを入力することで、試用版はそのまま正規版

になる。ちなみに、こういう形式のソフトのことを「キーウエア」と呼んでいる。

つまり ARENA は買う前に試せるという長所を持っている。使ってみて、気に入ればお金を払えばいいのだ。しかも、その試用版は正規版と同じ機能を持っている。試用版だからといって、できない機能などはないのだ。

だから、まだ使っていない方は、ダウンロードして、しばらくの間、ARENA の世界を試してみたい。きっと気に入るはずだ。

● ARENA を使うために必要な条件

ARENA を使うためには、なにが必要か。まず Mac。あたりまえだけど。

ARENA は現在のところ Mac 版しか存在しない。ARENA が使えないコンピュータを使っている人もあるかと思うと、不憫でならない。

さて Mac にもいろんな種類がある。なにしろ発売されてから 15 年以上経過しているパソコンなのだ。ARENA は幅が広い。昨今の多くのソフトが「PPC 専用」になっているなかで、ARENA の要件は、

- ・PowerPC または 68040/68LC040 を 搭 載 し た Macintosh

ということだ。68040 とか PowerPC というのは、“どいう CPU を使っているか”ということだ。はじめての 68040CPU 搭載の Mac は Quadra700/900 であり、これは 1991 年 10 月の発売だ。だから大ざっぱにいうと、10 年以内に購入した Mac なら大丈夫、ということになる。この守備範囲の広さも ARENA の特徴のひとつだ。

もちろん iBook、iMac は PowerPC を搭載しているから、OK。

あと、必要な条件としては

- ・Mac OS 8.1 以降 (Mac OS 8.5 以降を推奨、Mac OS 9.2 対応)

- ・4.5MB 以上の空きメモリー (PPC 版仮想メモリ使用時。
68K 版は 4MB 以上)
- ・インターネットへの接続ができること

ということだが、これはほとんどの場合、問題なくクリアできる条件だろう。つまり、現在 Mac を使っている方なら、おおむね、誰でも使えるということだ。

老婆心ながら付け加えると、この条件に満たない Mac *しか*ない場合は、そろそろ乗り換えをお考えになったほうが、いいんじゃないかな。

なお、お使いの Mac の OS が Mac OS X の場合は上記条件は自動的にほとんどクリアしていることになる。

●要件に合致しているかを調べるには

ARENA が要求する条件は、とつてもハードルの低いものだから、現在世の中で動いている Mac のほとんどは、問題なくクリアできる、と思うが、念のため調べてみたい、という時の方法を述べておこう。

まず、Mac OS X で走っている Mac。これはもう “Mac OS X がインストールできた” ということで、すなわち ARENA の要求条件をすべてクリアしているということになるから、いわばフリーパス。

続いて OS だ。これは Finder の状態でアップルメニューの一番上に表示される「このコンピュータについて」を見る。図 02-03 のようなウィンドウが表示されるはずだ。注目していただきたいのは、図でマルをつけたところ。そこの表記が「8.1」より大きな数値になっていれば、OK。なっていないければダメということになる。図の例は「8.0」なので、惜しくもダメということになる。ただこの場合 (8.0) は、Apple から「アップデーター」が無償提供されているので、8.1 にバージョンアップすることができる。Apple の「ソフトウェアアップデート」のページ (<http://www.apple.co.jp/ftp-info/index.html>) から、「Mac OS 8.1 アップ

デート」をダウンロードすればよい。

図 02-03

この Mac は OS のバージョンが「8.0」だから対象外。OS のバージョンアップが必要になる



図 02-04

こちらは Mac OS 9 だから大丈夫



次のハードルはメモリ。これも上記の「このコンピュータについて」のところで表示されている。Finder 以外のソフトをすべて終了した状態で、このウインドウを出し、そこで「最大未使用ブロック」の数値を読む。これが 4.5MB 以上なら OK ということになる。

CPU はどうか。OS が 8 以降なら、Apple メニューの中に「システムプロフィール」という項目があるから、これを選ぶ。すると図 02-05 のようなウインドウが表示されるだろう。ここで「プロセッサ情報」を見ればよい。「60840」「68LC040」「PowerPC」なら OK ということになる。



図 02-05
この場合は「PowerPC G3」
だから、無論大丈夫

● ARENA をダウンロードする (Mac OS 8.1～9.X)

アリーナプロジェクトのサイトから ARENA をダウンロードするためには、(当たり前のことだが) Internet Explorer、Netscape Communicator などの Web ブラウザが必要になる。もちろんそれを一応使える、ということも条件になる。ここではその使い方には触れない。もし、それがわからないという方は、インターネットの入門書を参照していただきたい。

さて、ブラウザさえ使えれば、ARENA のダウンロードはきわめてカンタンだ。act2 ないしアリーナプロジェクト「ダウンロード」と記されたリンクをクリックすることで、図 02-06 のようなページが表示される。ここでアンケート項目を記入することで、実際のダウンロードページが表示される。

ここで PPC か 68K かを間違わないように「サイト 1」ないし「サイト 2」をクリックする。

iMac や iBook の内蔵モデムを使用している場合でも、おおむね2分程度でダウンロードは完了するはずだ。

ダウンロードが完了するとブラウザの設定によっては、次のようなダイアログが表示される。

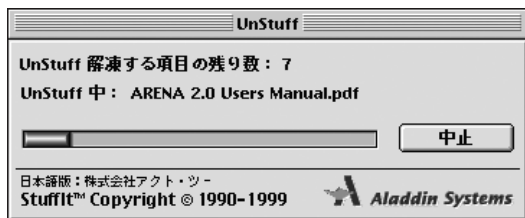


図 02-07
ブラウザの設定によっては、ダウンロード直後に自動的にこのダイアログが表示される

これは“解凍”を行っているわけだ。この場合は、ブラウザの設定であらかじめ指定した場所（たいていはデスクトップになっていると思うが）に、図 02-08 のようなふたつのアイコンが現われるはず。

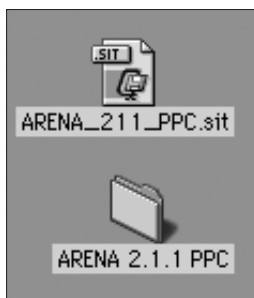


図 02-08
デスクトップにこのふたつのアイコンが現われる

もしフォルダのアイコンが現れず、上の「ARENA 2.1.1 PPC.sit」だけだとすると、これを改めて“解凍”する必要がある。

解凍にはフリーウェアの StuffIt Expander (ver.5 以降) が必要になる。持っていない場合は発売元の act2 のサイ

トからダウンロードできる (<http://www.act2.co.jp/>)。

02-02

ARENA をセットアップする (Mac OS 9 までの場合)

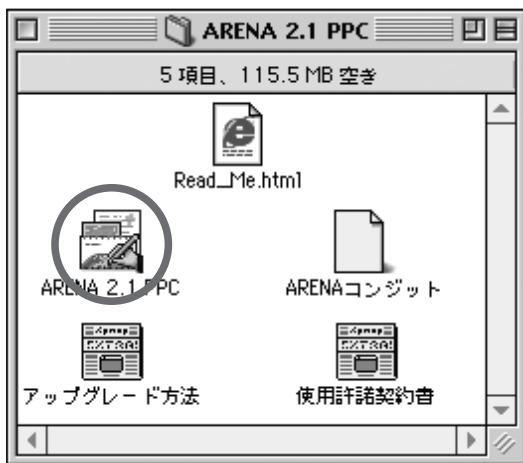
ARENA は Mac OS 9 までも Mac OS X でも使うことができる。Mac OS 9 までと Mac OS X では、いくつかの点で多少の違いがある。以下の記述は、もっぱら Mac OS 9 までの状態でのものだ。Mac OS X での違いは、この説明のあと、まとめて述べる。Mac OS X でしか使わないよ、という方もしばらく、Mac OS 9 までのセットアップ方法に付きあってほしい。

●最初の起動

さて、この「ARENA 2.1.1 PPC」というフォルダだが、この後ろのほうの数字は、ダウンロードの時期によって変わっているかもしれない。しかしこのフォルダの基本的な内容は変わらないはず。

フォルダの内容はこのようになっている。

図 02-09
マルをつけたのが ARENA
本体のアイコンだ



ARENA は他のアプリケーションに比べても、インストールやバージョンアップの際に行うことが非常にシン

プルなことで評判の高いソフトだ。まさにこの ARENA 本体のアイコンをダブルクリックするだけで、使いはじめることができる。あれをどうする、ここをこう変更するなどという面倒な手続きは不要だ。

ダブルクリックしてみよう。まず「試用版」であるダイアログが表示される。先にも述べたように、ARENA はお金を払わないでも 3 週間の間、試用することができるが、その期間中は、このダイアログが起動ごとに表示される。

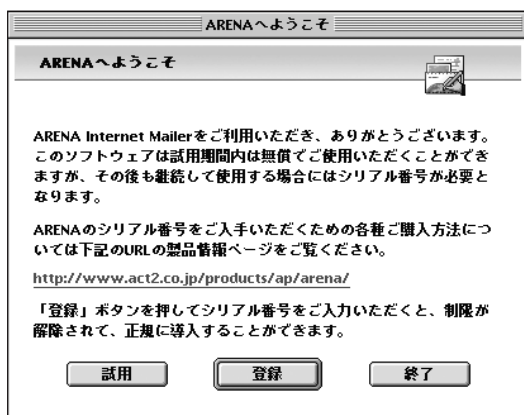


図 02-10
「試用」ボタンをクリックして先に進む

今はとりあえず「試用」ボタンをクリックする。「Top」という名のウィンドウと同時に「必要な設定がなされていません。アカウント設定を行ってください。」というダイアログが表示される。ここで「OK」をクリックすると、設定のためのウィンドウが表示される。

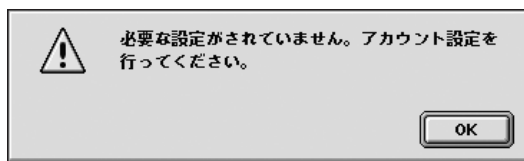


図 02-11
メール送受の設定をうながすためのダイアログが表示される。ここで「OK」をクリック

ここでもっとも簡便な設定方法は、このウインドウ左上の「Internet Config を参照」のチェックボックスにチェックを入れる方法だ。Mac OS では、OS インストール直後の第1回目の起動の際に、インターネット接続のためのさまざまな情報を登録するような流れになっている。その時に、ちゃんと情報を登録していれば、その情報はすでに「Internet Config」に書き込まれており、このチェックボックスをチェックしただけで、その情報を流用することができる。

図 02-12

このようなメールの送受のための設定をうながすウインドウがでる。この各欄を埋めてもよいが



図 02-13

チェックボックスにチェックを入れて、Internet Config の設定をそのまま使うという方法もある



もちろんチェックボックスにチェックを入れずに、設定ウインドウの各項目にタイプして、ひとつずつあらためて入力してもよいが、メーカー乗り換えてこともあるだろうから、「Internet Config」情報を使うやりか

たのほうが、間違いがなくていいだろう。

なお、「Internet Config」の情報を書き換えるには「コントロールパネル」の「インターネット」で行う。



図 02-14
「Internet Config」の情報を書き換えるには「コントロールパネル」の「インターネット」を使うとよい

●メール送受のための設定

「Internet Config」に設定された情報を流用する場合（それまで他のメーラーでメールの送受がうまくできている場合と言ってもよいかもしれない）は、以上で ARENA 側の基本の設定も正しくできていることになる。

ただ、ARENA が初めて使うメーラーである場合などで、うまく接続できなかったケースなどのために、念のために、ここでの各設定の概略を書いておくことにする。

「あなたの本名」。これは何を書いてもよい。ここでの表示は、こちらから送信するメールの“差出人”欄に表記される。図のようなイメージだ。一般的にはここには（もちろん）あなたの本名を書く。漢字を使ってもよいが、受け手が日本語環境でない場合は当然のことながら、差出人欄が文字化けする。海外にメールを送る

機会の多い人はローマ字表記にするほうがよい。

図 02-15

本名の欄に記入した内容が、このようにメールの宛先欄に表示される



「メールアドレス」は文字通りメールアドレス。「POP サーバー」にはプロバイダから送ってきた書類に記載されている“POP サーバー”（受信サーバー名など）と書いてある場合もある)の内容を、「SMTP サーバー」には同じく“SMTP サーバー”（送信サーバー名など）と書いてある場合も)をタイプする。この両者は同じである場合も少なくない。そうした場合にはプロバイダの書類には単に“メールサーバー”と書いてあることもある。

つぎの「ユーザー名」には POP サーバーに入るためのユーザー名を入れる。多くのプロバイダでは、これはメールアドレスの「@」より前の部分(図の例では「yutakaishida」)だが、まったく違う文字列である場合もある。プロバイダからの書類に“POP アカウント名”などと書いてあるのがそれだ。

「POP パスワード」は、文字通り、パスワード。これもプロバイダからの書類に記載されているはず。

ただ、このパスワードは頻繁に変更した方がよいようだ。老婆心ながら。

02-03

はじめての送受信

● TOP ウィンドウ

さて、設定が完了すると表示される Top というウィンドウ。まるで Finder のウィンドウのようだが、これが ARENA の初期ウィンドウである。

この最初のウィンドウの様子からして、ARENA の全体コンセプトを推察させるにたるものだ。ARENA

は、たいへん Mac ライク、つまり Mac の基本の操作のありかたにとっても忠実にできている。だから、Mac を今まで使ってきた人なら、自然に ARENA の世界に入っていけるのだ。

これも ARENA の高い評判を支えているひとつの要素だ。



図 02-16
TOP ウィンドウには 5 つのアイコンが見える

Top ウィンドウには当初、5 つのアイコンが見える。Inbox、Outbox、Drafts、SentMail、Trash の 5 つだ。注意深い方なら、この中で Drafts と SentMail のふたつはイタリック表示になっていることにお気づきだろう。Finder でイタリック表示されるのは (Mac OS X ではザンネンなことになってしまったが) 「エイリアス」ということだ。ここでもそれは同じ。Drafts と SentMail はどちらもエイリアスである。その“実体”は Outbox の中にある。試しに Outbox をダブルクリックして開いてみると、そのふたつの本体をみることができる。



図 02-17
Outbox の中に Drafts と SentMail の実体がある

ともあれ、これらのアイコンはどれも“一種のフォルダ”と考えればよい。着信したメールは Inbox フォルダに入り、こちらから発信したメールは Outbox フォ

ルダに入る。また削除したメールなどは、完全に削除するまでは Trash の中にある……と。

ちょっとヤヤこしいことを言うようだが、ARENA の中では、このフォルダのような働きをし、フォルダのように見えるものを「フォルダ」と「メールボックス」に分けて考えている。この5つでいえば、Inbox と SentMail がメールボックスで、あとの3つはフォルダだ。

メールボックスとフォルダの違いはおいおい述べていくことにするが、使い勝手としてはどっちも“フォルダみたいなもの”と思っておいて間違いはない。

●最初の送信、最初の受信

メーラーをインストールして、最初に行うのは、自分自身へのメールの送信と、受信だ。これはいわば“お約束”の手順といえる。このテストによって、とりあえず、送信・受信というメーラーのメインの動作についての設定のチェックができるからだ。

「Inbox」のアイコンをダブルクリックする。あらわれるツールバーの「新規」アイコンをクリックする(図 02-18)。新しいメールのためのウインドウが表示されるので、その宛先に自分のメールアドレスをタイプし、適当なタイトルと文面を書き込み(図 02-19)、「送信ボタン」をクリックする。ただし POP before SMTP (92 ページ参照) がなされているメールサーバへの接続の場合、この方法では送信できない。詳しくは後述するが、

図 02-18
新規ボタンをクリックする





図 02-19
自分宛にメールを書き、送信し、その後受信してみる。送信した自分宛メールが正しく受信できれば、設定は正しくなされているってことになる

その場合は取りあえず「送信」ボタンのかわりに「ファイル」メニューの「メールをチェック」を使っていたいただきたい。

設定がうまくなされておれば、インターネットに対する接続が開始され、メールの送信がなされるはずだ。送信が完了したら、今度は「受信」ボタンをクリックする。

使っているメールサーバによっては、自分宛のメールであっても、数秒程度の遅れはあるかもしれないが、おおむね、すぐに自分が出したメールが戻ってくるはずだ。

この一連のテストがうまくいけば、設定は正しくなされていることになる。もしこのテストで、なんらかのエラーが出る場合、それは設定のどこかに間違いがある、ということだ。

前節の設定の記述にしたがって、もういちど設定を見直していただきたい。

●登録キー入力

ダウンロードしてきた ARENA は「試用版」である

から、3週間の間は試用を続けることができる。この試用期間中に、ホントにお金を払って使い続ける価値があるかどうかを体験するわけだ。

図 02-20

試用版を使って送ったメールのヘッダ部分には、試用版であることを示す文字列が表示される



一般に試用版というのは、何かしらの機能が制限されていることが多いのだが、ARENAに限っては、そういう制限はいっさいない。製品版との違いは、起動時に「試用」ボタンを押さないと使い始められないことと、送ったメールのヘッダに試用版であることが記述されることだけだ。

試用の結果、よし、これでいこう！ということになれば、お金を払う必要が出てくる。支払いはact2のサイトから行う。ARENAをダウンロードした際に使ったページの「カート」というリンクをクリックすると、図02-21のような画面になる。ここで住所氏名などの個人情報ならびにクレジット番号を入力することで、送金手続が完了する。数日のうちにact2から「登録キー」がメールで送られてくる。

起動時に表示されるパネルで「登録」ボタンをクリックするか、起動してからアップルメニューにある「登

録キー入力」メニューを選ぶことで、登録用のウィンドウがでるので、そこに送られてきたメールの記載に従って、名前、所属、登録キーを入力する。

これで、晴れてあなたも ARENA の正規ユーザーということになり、以降、登録をうながすパネルも表示されないようになる。



図 02-21
ここに必要事項を記入する

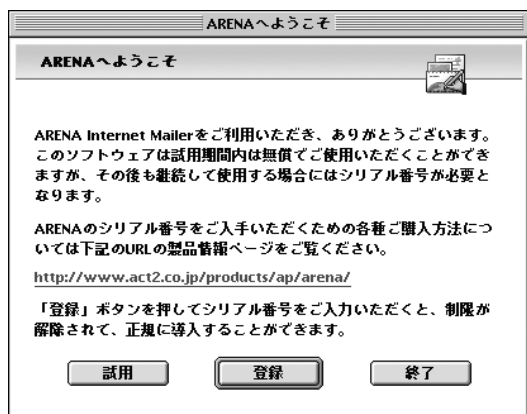


図 02-22
「登録」ボタンをクリック

図 02-23

または起動後アップルメニューの「登録キー入力」を選ぶと



このウインドウが出るので、ここに送られてきたメールの記述に従って、名前、所属、登録キーを入力する



● Mac OS X の場合

Mac OS X に ARENA をインストールする手順も、基本は今まで述べたものと変わりはない。Mac OS X にインストールする場合は、「Carbon 版」をダウンロードする。ダウンロードしたものを解凍すると、図 02-24 のようなフォルダができるので、このフォルダをまるごと「Application」フォルダに移動させればよい。

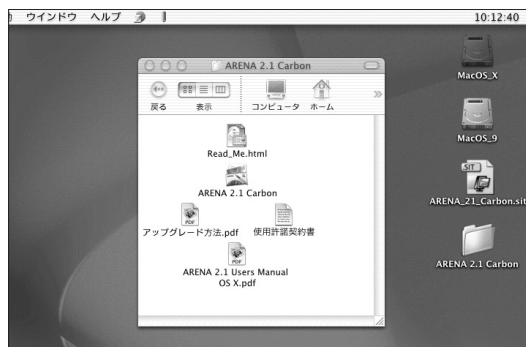


図 02-24
解凍したフォルダを
「Application」フォルダに
移動させる

なお、Mac OS 9までのARENAとMac OS X版のARENAに関しては、ウィンドウの形状などが違っていている (Mac OS Xのウィンドウになっている) ことを除き、大きな異同はない。ただ、Mac OS 9までの場合は、「ARENA」フォルダの中にできるユーザー情報やメールを格納するためのフォルダが、各ユーザの「Home」の中の「Documents」フォルダの中にできることだけが違う。

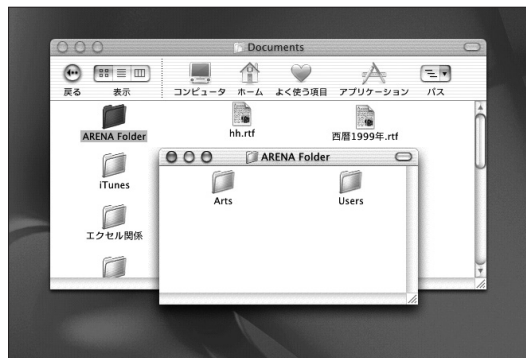


図 02-25

02-04

ARENA をマルチアカウントで使う

●マルチアカウントとは

最近では無料のメールアドレスサービスもあり、ひとりで複数のメールアドレスを持ち、使い分けている人も増えてきた。もちろん ARENA でもこうした複数のアドレスを管理するための「マルチアカウント機能」に対応している。それも単に対応しているというレベルを超え、例によって、かゆいところに手の届く“親切対応”になっている。しかし、逆にそれが若干のわかりにくさにつながっているのかもしれない。そこで、以下、おこないたい条件別の流れで説明してみよう。

マルチアカウントとは、要するに「複数のメールアドレスのメール送受を同じ Mac の中に入っている同じ ARENA で処理する」ということだ。

●ひとつの SMTP サーバーを共有する場合

メールアドレスが異なるということは、少なくとも POP アカウントは異なるということになる。しかし送信に使う SMTP サーバーは、異なる場合と同じである場合がある。

SMTP サーバーが同じである場合とは、以下のようなケースが考えられるだろう。

1. 同じドメインで複数のメールアドレスを持っている場合

たとえば「ishida@kamehameha.xx」と「info@kamehameha.xx」などというように、独自ドメインの中での個人アドレスと管理用アドレスを使い分けるとか、プロバイダの「追加メールアドレス発行サービス」などでふたつめのメールアドレスを取得したようなケースが考えられる。

2. 一方のメールアドレスが受信専用であるような場合
たとえばメーリングリスト用に、受信専用のメールアドレスを持っているような場合。

3. 無料メールアドレスの一部にあるように SMTP サー

バーを提供していないサービスを使う場合

以前の mac.com などがそうだった。受信はそのアドレスで行うのだが、送信は別のプロバイダの SMTP サーバーを介して行わなければならないようなサービス。

こうした「複数の pop アカウントにひとつの SMTP サーバー」という組み合わせの場合は「環境設定」→「アカウント」の「POP サーバー」パネルを使って、2 つ目 (以降) の POP アカウントを登録すればよい。

このパネルで「新規」ボタンをクリックすると、「名前:」の欄と左側のスクロールテキストボックスに「POP サーバー」が入る。「POP サーバー」をわかりやすいものに書き換える。以下、28 ページで説明したのと同じように、各設定項目に必要な設定を入力する。

行う作業はこれだけだ。

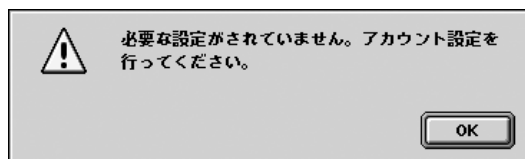


図 02-26

ひとつの SMTP サーバーを共有する場合は、POP アカウントを作成するだけで OK だ



●異なるSMTPサーバーを使う場合

POPサーバーごとに異なるSMTPサーバーを使う場合もあるだろう。というより、こっちが普通かな。2つ以上のプロバイダと契約しているような場合がそれにあたる。

この場合にはPOPアカウントを作成したあと、SMTPサーバーはもちろん、いくつかの設定を行う必要がでてくる。

まず「環境設定」－「アカウント」の「SMTPサーバー」パネルでSMTPの設定を行う。手順はPOPサーバーの設定と同じだ。

図 02-27
SMTPサーバーの設定を行う



SMTP サーバーが異なるということは、差出人も違うということなので、「差出人」タブで差出人の設定を行う。



図 02-28
差出人の設定を行う



ここで差出人と SMTP サーバーを関連づける。プルダウンメニューを使って、差出人と SMTP サーバーを関連付けるのだ。



図 02-30
差出人は送信時に注意深く
切り替えなければならない



pot の SMTP サーバから返信が送られてしまうのだ。

送信・返信の際は、差出人がどうなっているかを注意しなければならない。

と、いっても、そこは人間のことだから、間違いもある。そこでその間違いをなるべく起さない方法としては、利用する SMTP サーバごとにメールボックスを切り分けるという方法がある。

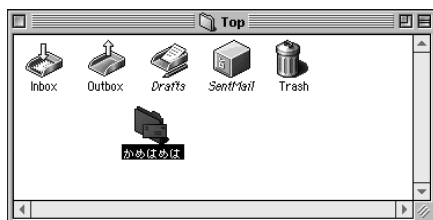
ちょっと先回りしちゃうけど、150 ページの要領でメールボックスを作成する。図 02-31 では「かめはめは」というメールボックスを作っている。「振り分けの設定」(165 ページ)で、「is@kamehameha.xx」に届いたメールはこのメールボックスに格納されるようにする。

そしてこのメールボックスを選択して、「メールボックス」メニュー「メールボックスの設定」の「メール」タブで「利用する差出人」を「カメハメハ」に設定する。

こうしておけば「is@kamehameha.xx」に届いたメールに対する返信は、何も考えなくてもカメハメハの SMTP サーバから「is@kamehameha.xx」を差出人として送られる。

図 02-31

この方法で SMTP サーバーを複数持つ場合は、メールボックス設定などで工夫しておかないと、なにかと間違いが起こる



●サーバーセットで切り分ける方法

以上のように設定すると、複数の POP アカウントと複数の SMTP サーバーが使い分けられる。この方法の問題点は、送受信すると pot のメールもカメハメハのメールも共に送受信されることだと感じる方もあるかもしれない。

たとえば一方が仕事用、いっぽうのアドレスを遊び用と分けている場合、昼間は仕事用のメールだけを送信し、仕事が終わったあとは遊び用のものだけを送受信したい、と考える場合もあるだろう。

また、POP サーバーにアクセスするのは、それなりに時間がかかることから、たくさんの POP アカウントを使い分けていてもふだんはひとつの POP アカウント (メールアドレス) だけをチェックし、他のものは時間があるときにまとめて処理したいという場合もあるだろう。

こういうニーズがある場合は、サーバーセットを切り替えることで対処する。「環境設定」－「アカウント」の「POP サーバー」「SMTP サーバー」については、前項の記述と同じように設定する。その後「サーバーセット」パネルで新しいサーバーセットを作成する。そして両方のサーバーセットともども、同じパネルの



図 02-32
「カメハメハ」というサーバーセットを作り、SMTP のポップアップメニューと POP のチェックボックスを設定する。同時にデフォルト側の設定も変えておくことをお忘れなく



「SMTP」「POP」双方を関連づける。

「差出人」パネルの「送信に利用するサーバー」はともに「サーバーセットを参照」にしておけばよい。

図 02-33

差出人の「送信に利用するサーバー」は「サーバーセット」を参照」



このように設定しておく、普段の送受信はデフォルトの方だけになり、「ツール」メニュー「サーバーセット切替」を使ってカメハメハの方の送受信を行うという手順になる。ただしこの方法でも前項で述べたように、差出人と SMTP サーバは関連づけられていないので、サーバーセットを「カメハメハ」に変えても、そこで新規メールを作ると「pot」のアドレスでのメールになる。前述の通り、メールボックスの設定で逃げるしかないわけだが、それは困るという人は、今から述べる「マルチユーザー」でのやり方にするといよ。

図 02-34

サーバーセットはメニューで切り替える



●マルチユーザーとは

マルチユーザーとは文字通り、複数のユーザー（人間）で同じ ARENA を使い分けるといふ機能のことだ。基本的には夫婦だとか兄弟だとか同僚だとか、複数の人間で同じ Mac を共有している場合、ひとつの ARENA をそのどちらかが使えるようにする、ということ。

ユーザーを切り替えると、あたかも“別の ARENA を起動した”ような環境になる。つまりメールボックスも違えば、さまざまな環境設定も異なる。

ユーザー切替時にパスワード（これは POP のパスワードとは異なり ARENA の中だけのパスワード）入力を要求するようにもできる。いくら夫婦でも、おたがいのメールを見るなんてことはイケナイでしょ、という仕様だ。もちろんパスワードなしにも設定できるのだけれど。

昨今はコンピュータも安価になったので、ひとつの Mac を複数で共有するなんてことも少なくなったかもしれない。ひとりの人間で Mac を占有している場合でも、マルチユーザー機能を使う場合もある。いわば“ジキルとハイド”とでも言おうか。

オフィシャルなメールアドレス（群）とプライベートなそれを、マルチユーザーで切り分ける方法だ。

これなら「マルチアカウント」のところで述べた「間違えて別アドレスで返信してしまう」ということもなくなる。

●マルチユーザーの設定

マルチユーザーの設定、つまり新しいユーザーを作るには、「環境設定」の「ユーザー」を使う。

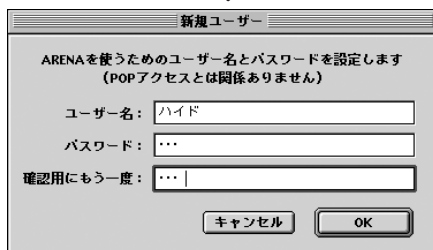
ここで「新規」ボタンをクリックし、ユーザー名と（必要に応じて）パスワードを入力する。パスワードを設定する場合は、逆に言えば Main の側にもパスワードをつける必要があるだろう。その場合は「Main」を選んで「パスワード変更」する。

02-05

ARENA をマルチユーザーで使う

02 - ARENA をセットアップする

図 02-35
新しいユーザーを作成する

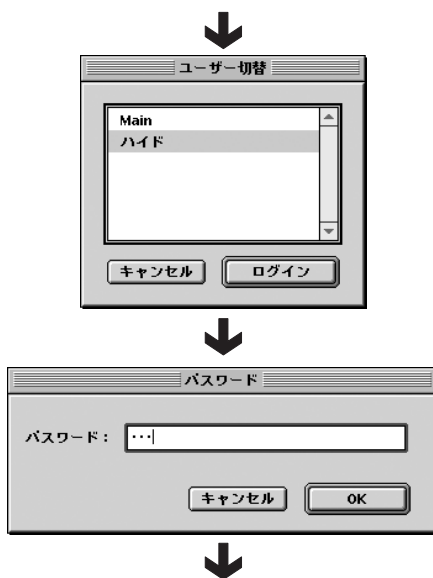


この後、「ツール」メニューの「ユーザー切替」を選

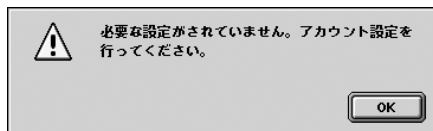
ぶと、パスワード入力後、スプラッシュウインドウ (ARENA 起動時に表示されるパネル) の表示後、「必要な設定がなされていない」というダイアログが出るはずだ。



図 02-36
メニューから「ユーザー切替を選ぶ」。



最初は当然設定がなされていないわけだから、このようなダイアログが表示される



27 ページで記述したように、新しいユーザーのアカウントに対しても設定を施さなければならない。設定が完了したら、これで、作業は完了だ。今後は ARENA の起動時に、まずユーザー選択のパネルが表示され、ユーザーを選ぶところから、作業がはじまるようになる。

図 02-37
新しいユーザーにも各種の設定を行う



02-06

ARENA をアップ デートする

●ユニークなアップデート方法

ARENA 2.1 から 2.1.1 にアップデートされた際に、ARENA の一大特長であったアップデート方法が変更された。

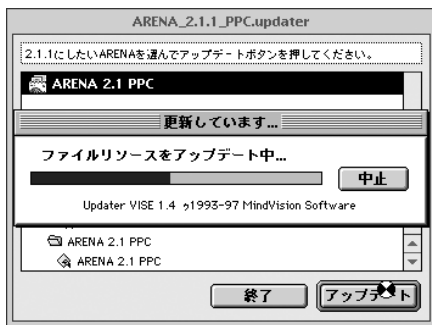
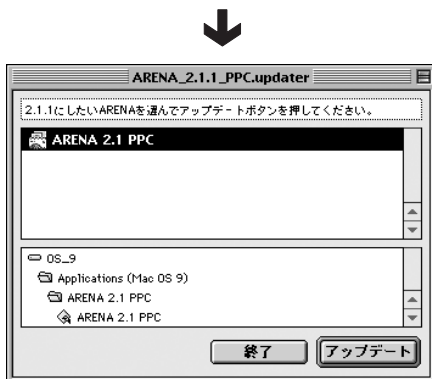
まず新しくなったアップデートの方法を述べよう。販売元である act2 のサイトからダウンロードしてきたアップデートは図 02-38 のような形状のアプリケーションになっている。

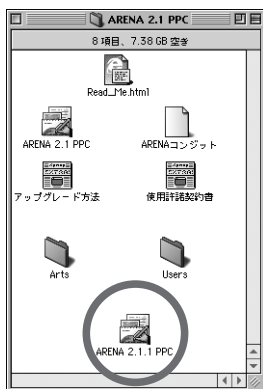
これをダブルクリックすると、今までの ARENA のファイルを解析し、同じフォルダに新しいバージョン

の ARENA アプリケーションのファイルが生成される。もしかすると、ウィンドウの下部に隠れているかもしれない。ウィンドウを拡げてみると、新しく ARENA2.1.1 のアプリケーションアイコンができてはいるはずだ。



図 02-38
updater をダブルクリックすると、ハードディスク内の ARENA の場所を確認し、新しいバージョンのアプリケーションファイルが、同じフォルダ内に生成される





今後はこれを起動することで、新しいバージョンに移行できる。設定などはすべて引き継がれるから、アップデートに伴う作業はなにもない。

移行後も古いバージョン（この場合には2.1）は残っている。もしなんらかの必要があれば、2.1のアプリケーションアイコンをダブルクリックすることで、旧バージョンに戻れるわけだ。もちろん旧バージョンで起動した場合も、新バージョンで起動した場合も、同じデータを取り扱う。つまり、バージョンの変化にともなって、メールのデータを移行したり、途中が飛んだりするようなことはない。

このアップデート方法は気軽にアップデートでき、かつ、なんらかの不都合があれば（アプリケーションをアップデートしたために不都合が生じるというのは、なにも珍しい話ではない）いつでも元へ戻れるという点で、非常にすばらしい方法だと評価できる。しばらく新バージョンを使ってみて、問題がなければ、その時点でももろに旧バージョンのアプリケーションファイルをゴミ箱に捨てればいいのだ。

もし問題があるとすれば、間違って古いバージョンのアイコンをダブルクリックして立ち上げてしまうことが

あるかもしれない点、ランチャーなどを入れ替えなければならない点くらいだろう。そういう問題点は、このアップデートの簡便さ、合理性の前で、なにほどもでもないように思う。

この方法でも十分評価にたるのだが、これまでの方法は、もっとスゴかった。ダウンロードしてたファイルを解凍すると、そこにはアプリケーション本体がある。このアプリケーションファイルを従来の ARENA のフォルダに置くだけだったのだ。本質として現行の方式と変わっていないものの、その気軽さ、わかりやすさは他に類をみないものだった。

今の方式も本筋で同じであるけれど、このアプリケーション本体をおくだけ、という方法は精神衛生的にもよい。というのは、これだと、決してシステムフォルダに改変を加えていないということが明らかにわかるからだ。

ともあれ、ARENA のアップデートはわかりやすくていい。

● A-Porter

ARENA を使い始めることで、もっとも気になることは「いままで使っていたメーラーからうまく乗り換えられるのだろうか」ということではないだろうか。

メーラー乗り換えにあたって、旧メーラーから引き継ぎたいデータの最大のはアドレスブックの内容だろう。それに次いでメールのデータではないだろうか。

こうした旧メーラーのデータは、限られたメーラーだけが対象だが、アリーナプロジェクトが無料で公開している A-Porter というソフトを使って読み込むことができる。A-Porter を使って取り込むことができるのは、以下の通り。

02-07

他のメーラーからの乗り換え

メーラー名	メールの取り込み	アドレスの取り込み
Eudora ファミリー	○	○
Netscape Communicator	○	×
Netscape Navigator 3.01	○	○
Outlook Express 4.x	○	○
PostPet	○	○
クラリスメール 2.0	○	×
mbox	○	—
Mail Folder (RFC822)	○	—

この表を見れば一目瞭然だが、アドレスの取り込みができないメーラーは、かなりある。しかしそれは8章で述べる「アドレスの書き出し→テキストのアドレスリストへの読み込み」手順により解決する。

A-Porter はアリーナのサイト (<http://www.arena-p.co.jp/download/tool/aporter>) からダウンロードできる。